

新年会記念俳句会優秀作品

平成十四年一月二十八日

天

湯豆腐のほのかな温み父母の愛

大溪秀夫

地

落ち葉分け拾う銀杏母偲び

渡邊久晃

人

木枯らしを身体で聞いて眠り込む

吉田行雄

秀逸

湯豆腐のことごとと角の取れにけり

馬場茂夫

湯豆腐のいづれが奴の浮き沈み

広岡豊樹

湯豆腐に笑顔が集う三世代

鈴木武

落葉して隣の窓の灯り見ゆ

田中久作

落葉踏む音心地よく土の道

坪井正康

声あげてたはむる双子落葉舞ふ

馬場茂夫

ひらひらと落葉舞い込む出湯かな

丸山征夫

濡れ落葉わが作棚をおおいけり

広岡豊樹

小鳥とも蝶とも銀杏落葉かな

嘉瀬修

図書館の庭や落葉の吹きたまり

嘉瀬修

白き杖枯葉の中で佇みて

永桶栄資

木枯しを背(せな)にうけつつ道遠し

坪井正康

雪吊りの待ちどうしかな銀世界

西巻克郎

雪吊りに白い筋立つ路地の朝

木原崇

雪吊の門行く人に思うかな

高橋越朗

クリスマスケーキ無しでの老夫婦

鈴木武

佳作

湯豆腐の湯気の向こうに美人顔

西巻克郎

湯豆腐の口に溶け込むあたたかさ

近藤鉄也

湯豆腐や酒の銘柄こだはらず

田中久作

湯豆腐にくもりし吾の眼鏡かな

高橋 越朗

本成寺若き僧侶が落葉焚き

長谷川 晴生

肩先に落葉ひらりと寺の鐘

馬場 茂夫

高速の道に舞散る落葉かな

田中 孝幸

雪吊や斜線の繩の張りつめて

田中 久作

雪吊の手持ち無沙汰な日和かな

鈴木 武

雪吊に思いを寄せし友と酒

大原 義弘

木枯しや点滴しつつ外を見る

永桶 栄資

木枯しや明日をも知れぬ我が身かな

鈴木 圀彦

木枯しに足を早める宵の道

木原 崇

木枯しに軒の小雀丸くなり

丸山 征夫

木枯しやとぎ澄まされし月ひとつ

田中 孝幸

木枯しにまといつかれる一本道

嘉瀬 修

木枯しに耐えて残りし木の葉かな

佐藤 秀夫

不景氣の木枯しのころを迎えけり

クリスマスジングルベルを孫たちと

プレゼント考えるのも億劫クリスマス

クリスマス成績下がってサンタ来ず

クリスマス神父は白き服を着て

クリスマス孫の願いに緩む頬

### 選者吟

高原に 星花と咲く クリスマス

湯豆腐や 篝火焚きける 庭寂か

落葉ふる 本の整理に あけくれて

木枯らしや 海に出でける 鳥あり

枯葉径 良寛立像 草履はき

相田明雄

住谷哲雄

近藤鉄也

長橋朝子

田中孝幸

長谷川晴生

武藤昭三

